

阿寒摩周国立公園トレイルネットワーク構想

ーひがし北海道3空港をつなぐロングトレイルを目指してー



2021年2月

阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会

目次

1. 目的	1
2. ステップアッププログラムにおける位置づけ	1
3. 阿寒摩周国立公園トレイルネットワークの構築	2
(1) 基本方針	2
(2) 阿寒摩周国立公園トレイルネットワークの構想	3
(3) トレイルの管理運営体制	4

1. 目的

阿寒摩周国立公園においては、国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」としてのブランド化を図ることを目標にとりまとめられた「阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトステップアッププログラム 2020（以下、「ステップアッププログラム」という）」に基づき、国立公園内に歩いて自然を体験できるトレイル（散策路や登山道）とそのネットワークを整備し、インバウンド利用、長期滞在利用を推進する取り組みが進められている。

阿寒摩周国立公園内には、登山道や自然散策を楽しむ遊歩道として整備された既存歩道があるが、それらの歩道はネットワークとしてつながっておらず、長く歩いて旅をすることが想定された公園計画になっていない。

一方で、国立公園区域外においては、釧路から弟子屈、斜里を結ぶ北海道長距離自然歩道の構想や、全国的に認知されている根室中標津空港から美留和駅までの「北根室ランチウェイ」などが存在し、国立公園内外を含めた広域的なロングトレイルの構築が期待されている。

これら背景を踏まえ、国立公園内のトレイルネットワークおよび公園外を含めたロングトレイルの構築を見据え、活用が期待される未整備歩道の現況や課題、また先行事例からトレイルネットワーク構築に向けた課題を整理し、地域の関係者と連携しながら形成していく将来的なトレイルの構想を策定する。

2. ステップアッププログラムにおける位置づけ

2016年から2020年までの阿寒摩周国立公園の利用推進のためのロードマップとして策定されたステップアッププログラムにおいて、阿寒摩周国立公園の利用の推進に係る課題として、受入れ態勢の充実、利用メニュー・滞在プログラムの提供、プロモーションの推進、ブランドの確立と地域活性化があげられ、プロジェクトのコンセプトとして「火山と森と湖が織りなす原生的な自然と堪能する」を掲げ、具体的なプロジェクトが整理されている。

その中で掲げられた5つの重点事項のうち「地域連携による広域的な取組」の項目で、地域の魅力を生かしたロングトレイルやサイクリングロードの設定が位置づけられている。また、2019年1月の改定において追加された中間評価を受けて加速化する主な取り組みの中で、「阿寒摩周国立公園トレイルネットワークの形成」が位置づけられ、より重点的な取組として明確化され、2021年以降の計画である「阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトステップアッププログラム 2025」においても、重点的な取組として同様の内容が引き継がれている。

「阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトステップアッププログラム 2025」より抜粋

4) 阿寒摩周国立公園トレイルネットワークの形成

ATなどの欧米豪の旅行者は、自然の中を長距離歩いて楽しむというスタイルの旅行を好む傾向がある。国立公園内のトレイルを充実させていくことで、長期に滞在しながらゆっくりと国立公園の自然を満喫する、欧米豪の旅行スタイルに対応することができる。このため、まずは、国立公園内の既存のトレイルについて、見所や所要時間、レベル、入口までのアクセスなどを示したマップにより情報発信を行うとともに、「トレイルガイドライン」に基づき、統一感のある道標整備を段階的に進めることで、国立公園の歩道としての一体感や利用者の安心感を高めていく。

また、「トレイルネットワーク構想」に基づき、阿寒摩周国立公園内のトレイルをネットワークとしてつないでいくとともに、将来的にはひがし北海道の3空港（釧路、女満別、中標津）間を歩けるロングトレイルとしてつなげていくことを目指す。トレイルのセクション毎の宿泊拠点の整備や自転車、カヌー等での接続、二次交通との連携なども進める。

3. 阿寒摩周国立公園トレイルネットワークの構築

(1) 基本方針

阿寒摩周国立公園でターゲットとするアドベンチャー旅行に参加するような旅行者は、自然の中を長距離歩いて楽しむというスタイルの旅行を好む傾向がある。このため、国立公園内のトレイルを充実させていくことで、現在中心となっている点在する観光スポットを周遊する滞在時間の短い旅のスタイルから、長期滞在しながらゆっくりと国立公園の自然を満喫するスタイルへの転換につながると期待される。以下の方針に基づき、既存のトレイルと地域で活用を検討している新たなトレイルを繋げ、阿寒摩周国立公園を中心としたトレイルネットワークを構築するとともに、更に広域をつなぐロングトレイルの構築を目指す。

① 地球のエネルギーを感じる火山地帯を満喫する

阿寒摩周国立公園は3つのカルデラで構成されており、至る所で迫力のある火山活動や火山により形成された雄大な地形、火山の恵みである多種多様な温泉などが楽しめることが特徴である。このため、地球のエネルギーを直に感じることができるとような火山地帯を中心に歩けるようなルート設定とする。

② ひがし北海道3空港と国立公園をつなぐロングトレイル

将来的にはひがし北海道の3空港（釧路、女満別、中標津）や3つの国立公園（知床、阿寒摩周、釧路湿原）をつなぐロングトレイルとして発展させていくことを想定し、国立公園区域外との連携を進める。

③ 地域の歴史や文化を体験できる道づくり

地域住民との交流や体験などを通じて、自然と共生するアイヌ文化、硫黄採掘などの地域の産業の歴史、農業など北海道の雄大な自然の中で営まれる暮らしなどにもふれることができ、人との出会いと学びにつながる道づくりを進める。

④ 移動を楽しむアクティビティの充実

歩くことを基本としつつ、自転車やカヌーなどの非動力で移動することを楽しむアクティビティでつないでいくことも想定し、多様な移動手段に対応する。

(3) トレイルの管理運営体制

阿寒摩周国立公園のトレイルは維持管理や整備に関して多様な主体が関わっており、目指すトレイルネットワークの利用に関する一体的な情報提供や、整備・維持管理を一定の水準として維持していくためには、能動的に管理運営にかかわる統括的な役割を担う主体のもと、各地域の管理協力組織が連携していく体制づくりが必要となる。

現在、トレイルの実際の管理運営については、歩道の事業執行者、またはトレイルが立地する各市町村が主体となり、観光協会や地域のNPOや山岳会、ボランティア、他関係機関等の協力を得て実施されているが、トレイルネットワークの構築にあたっては、運営管理に係る関係者間の情報共有を図る体制づくりを目指していく必要がある。

また、トレイル整備や利用を積極的に進めていくためには、まず地域内におけるトレイルネットワーク構築に向けた機運を高めていく必要があり、地域の観光協会、観光事業者等の観光関係者と連携しトレイルを実際に歩くイベントを開催する等、地域一丸となり積極的な情報発信を行っていくことが望まれる。

なお、ロングトレイルは国有林、民有林、国道などの道路法の道路等をルートとすることが想定される。整備主体となる者は、地権者および道路管理者などの関係機関に事前に相談し、必要な手続きを行うこととする。

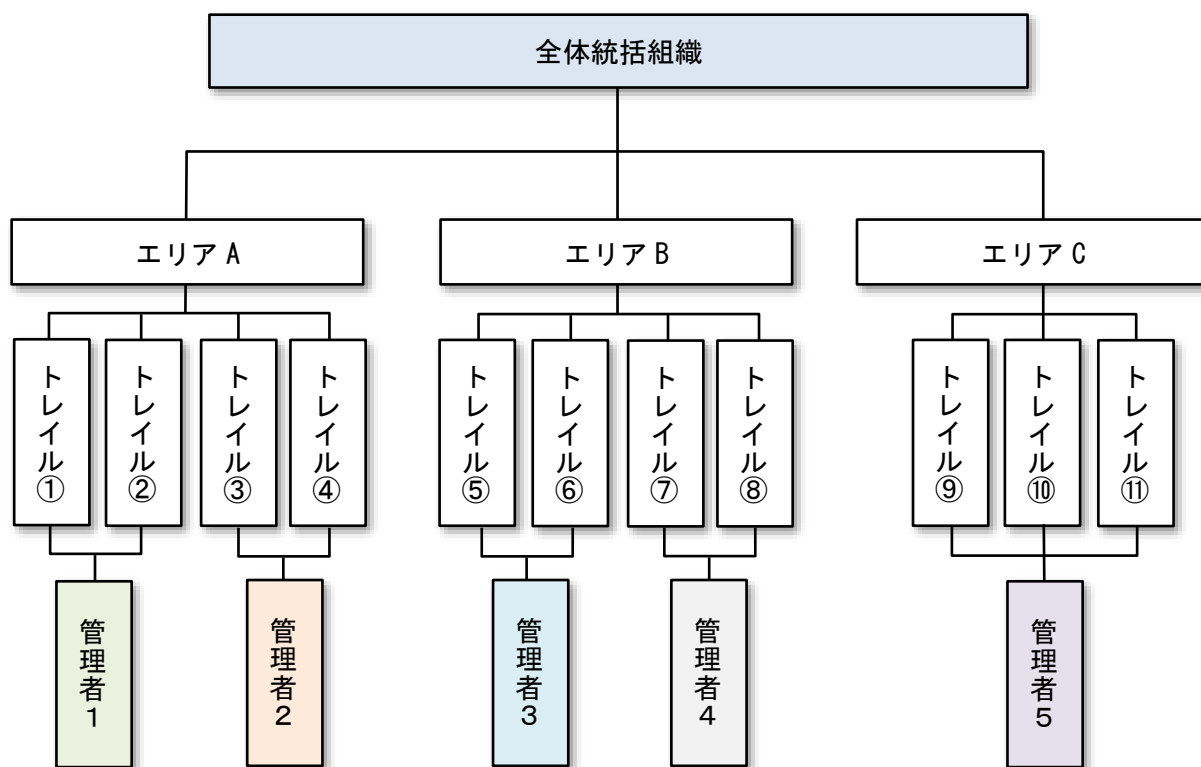


図2 トレイル管理体制のイメージ

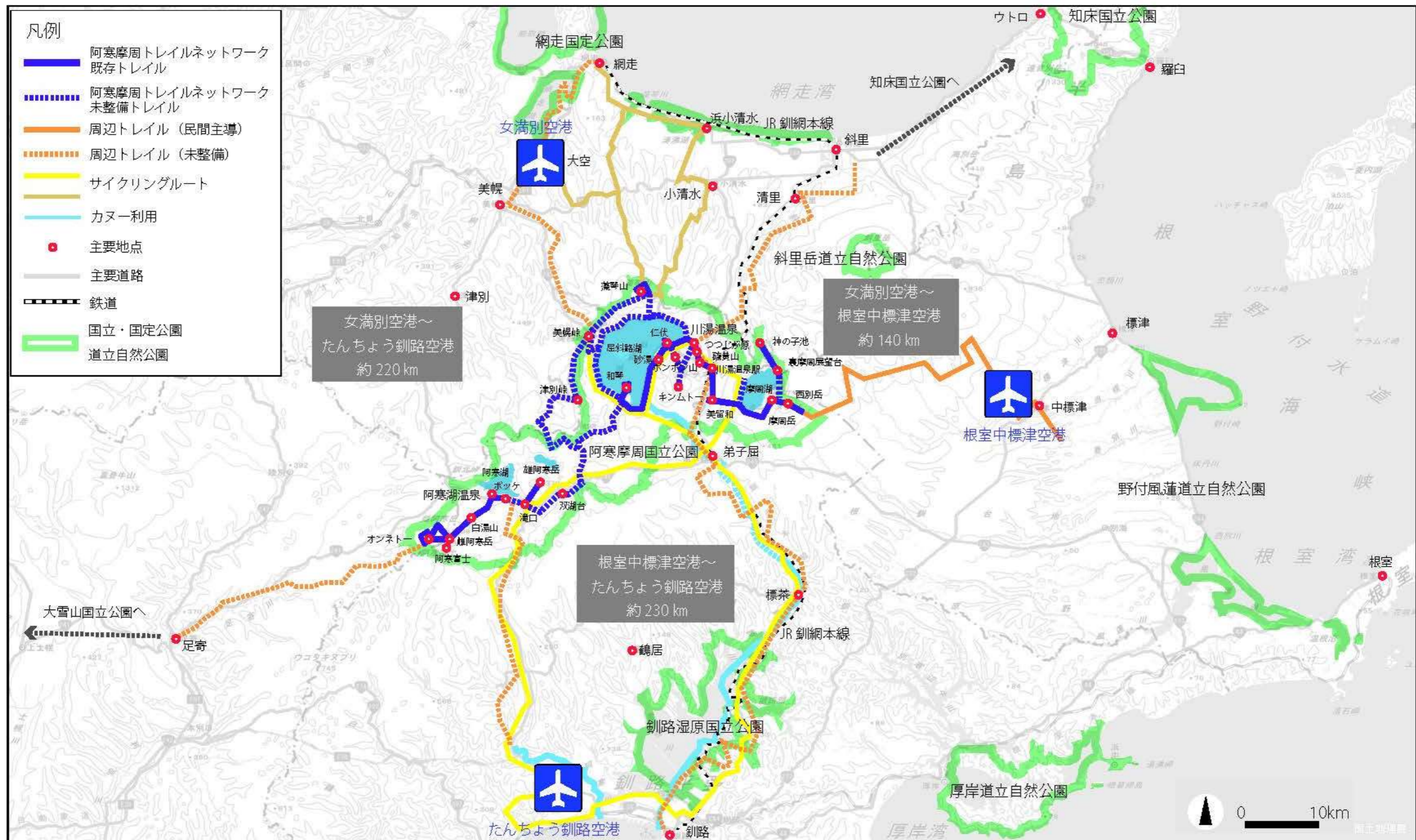


図3 阿寒周国立公園トレイルネットワーク（ひがし北海道3空港をつなぐロングトレイルを含む）構想図